

島松だより

日本キリスト教団島松伝道所

〒061-1351 北海道恵庭市島松東町4丁目1-8

牧師 辻中 徹也・辻中 明子

電話・FAX (0123)36-7275

<http://homepage2.nifty.com/simamatu/>

それどころか、
体の中でほかよりも弱く
見える部分が、かえって必
要なのです。
コリントの信徒への手紙Ⅰ
12章22節

題字 田川 正悦

信じて待つ。

「マリアは月が満ちて、初めての子を産み、布にくるんで飼い葉桶にねかせた。宿屋には彼らの泊まる場所がなかったからである。」
(ルカによる福音書 第二章六・七節)

原点 弱さは神様の愛を受け取る窓

私たちを祈りのうちに覚えて下さり、たくさんのお援助を頂きましてありがとうございます。与えられた主にある交わりを感謝し歩ませて頂いております。二十二年「障がい者と共にある教会形成をこの教会で実現したい」という故滝口孝牧師の幻を苦小牧地区の諸教会と共に担おうと話し合いました。島松宣教協力委員会が設けられ島松宣教活動推進基金が開始されました。滝口牧師は、ハンディーを持つお嬢さん圭ちゃんに「聖書の読み方を教わった」とよく語られたそうです。「弱さは神さまの恵みを受け取る窓」とも。何人もの方々から伺ってきました。

早目のさぼり 身の丈の自分をつくる

私はこの三年、躁と鬱での入院治療なく過ごすことができました。薬が代

牧師 辻中 徹也

わったこと、仕事の分担を減らしてもらったこと、一時間近く話を聴いてくださる医師と出会ったこと、デイケアを利用し始めたことなどわけを探すと、思いつくことはいろいろあります。と、書いたものの入院治療の経験を活かし「自宅入院？」をしています。「早目のさぼり」が効きます。信頼関係の伴うお互いのあきらめがあつてこそです。「絶好調」の時は、じつとおとなしくしています。先日、医師の言葉をメモしました。「これまで自分と病気は敵対するもので邪魔をしてくる存在だった。それが、病気も含めて自分なのだと受け入れられるようになって、コントロールが段々できるようになってきている。みんなが健常者じゃない。だから、そこから発せられるメッセージに説得力がある。それを私たちは期待している。病気を持った者として周りと折り合いをつけながら、どんな自分をつくっていくのか。」神をあがめ、讚美して帰っていききました。

信じて待つ 礼拝が決意を与え導く

前号で「島松会堂建築物語プロジェクト」を特集しました。昨年度は役員五名プラス三名で建築委員会を組織し、十一回の委員会と見学を行いました。今年は、信じて待つということを学ん



でいます。私たちには祈りがあり願いがあります。できることから「しままつ野菜だより」を始めました。夫々の決意と賜物が持ち寄られ、繋ぎあわされて神の栄光が現されると信じて待っています。みんなが建築委員、みんなが役員と、「うぐんミーティング」を、うぐん食堂後に月一度、始めました。救い主の到来を信じ待っていた羊飼いは布にくるまれて飼い葉桶に寝かされた乳飲み子を探しに出かけていきました。その困り果てたなかの、愛に包まれたしるしを信じたのです。信じないではおれなかったのでしょうか。そのしるしはまさに彼らの暮らしのただなかにすでにあったものだからでしょう。当時、羊飼いは「はみ出し者」でした。この自分達の暮らし場に救い主はお生まれになった。神をあがめ、讚美して帰っていった羊飼たちは瞬くような喜びで一つにされたことでしょう。イエス・キリストを礼拝する喜びが讚美となり、決意を絶えず支えますように、信じて待ち望みます。地に平和を！

はじめに

今年らしい特集は何だろう・・・と語り合いました。昨年の「会堂建築物語プロローグ」の次の年ということであれば、本当は第 1 章になるのが順当かもしれません。しかし、今年は具体的に進めることができませんでした。それは働き盛り世代を中心に礼拝出席しにくい者が多かったことも一因です。礼拝から一週間を開始したいという願いはありながら難しかったのです。皆が顔を合わせて語り合う機会もすくなく、「それぞれの近況、祈り、思い」を分かち合いたい！それが、そのまま今年のテーマとなりました。

「あなたの声を聞かせてください」という問いかけに応じて寄せられた声です。内向きな内容かもしれませんが。しかし島松の「今」を分かち合い、次の祈りや願いや課題、そして希望が示されることを願いつつ紹介しましょう。



なごみで一す！うたで一す！
チョコバナナ、おいしいっしょ！

「主が導き給うことを信じて」

田川 千枝

島松伝道所に転会して十八年がすぎました。木立に囲まれた教会はあたたかく私達夫婦を受け入れて下さった日が懐かしく思い出されます。八年前に夫を天国に送り今は一人で札幌から通っています。この会堂も五十年の月日を経ていので冬の寒さはこたえます。何とか暖かい会堂で礼拝を守りたいとの願いをもっていました。三年前台風で屋根が飛ぶ大きな被害が出て急に会堂建築が現実の問題となりました。それから何回も話し合いが重ねられ先ず第一歩として建築積立献金が始まりました。これからもいくつもの山を越えなければならぬことでしょう。私達はどんな時にも主が導き給うことを信じて祈りと力を合わせて歩んでゆきたいと願っております。

「コレステロール値が高いと言われて」

青柳 基子

この春、主治医から雪がとけたら少しでも歩くようにと言われました。そこで、今まで教会の礼拝出席のために、娘に車で送り迎えをしてもらっていたのを、行きは歩いていこうと思い、家から恵庭駅まで十五分歩き JR で島松へ。島松駅から教会まで約十五分を歩くことにしました。途中で疲れてしまい、やっぱり車に乗せてもらえばよかったのにと何度も思いましたが、教会に着き、礼拝を守り、お昼のうどんを

頂くと、身も心も感謝の気持ちで満たされます。これからも続けたいと思います。来週は検査があります。はたして効果が出ているでしょうか。楽しみです。

「ほっとできる教会」

福田 道子

礼拝中泣いたり、喧嘩したり、走り廻っていた孫のような子ども達がすっかり大きくなり、バザーでは大人以上の働きをするようになり、本当に嬉しい。来年は何人かが道外の大学へと進み淋しくなる。そうして毎年一人二人と巣立ってゆく。離れていても、この島松でみんなが祈っていることどうぞ忘れないでほしい。そしていつでも実家のように帰ってきてほしい。その為にも温かくて穏やかなほっと出来る教会であり続けたい。今の礼拝堂そのものがもつぬくもりと安らぎは是非とも残したい。会員が増えても、集う一人一人の醸し出すなごやかな雰囲気、イエスさまと一緒に働いてくださっていることを肌で感じられる空気は、いつまでも変わらず守り続けていきたい。

「ひだまり」

佐藤 町子

台所に立って洗い物をしていた時に、テレビのコマーシャルが流れた。「だれかの日だまりになつてますか」「ひだまり」何と懐かしく温かい響き！木の葉も色づき、きびしい冬の到来を思う最

近、自分の人生も又冬に向かっている事と重ね合わせ心が萎えていた時だっただけに、この言葉が琴線に触れた。日だまりにはしぜん人々が集り寄りそう優しさや温もりがある。今私はボランティアで老人施設のお年寄りと懐かしい「心の歌」を歌っている。最初は寡黙なお年寄りも歌に誘われ集まり昔を思い出して語り始める。その時私も一緒に癒されている事に気づく。今私達の教会は会堂建築を目指して祈っているが前途多難！今日の説教「完成させるのは主」を信じて地域の人々と日だまりを共有出来る会堂を望んでいます。

「声なき声を」

千葉 豊子

「あなたの声を聞かせて下さい」との問いかけですが、疲れが溜まりすぎると声の出なくなる私は「お聞かせする声がありません」といったところでしょう。色々な集まりの中で誠意？を持って仕事をすればする程、仕事の量が増えていくような気がしてお疲れモードです。そんな時、夜遅く白鳥の声を聞きました。今年も編隊を組んでウトナイ湖めざしてやってくる季節になったのです。野に咲く花や木々の変化、野鳥の渡りなどに季節の移りを感じることが私の癒しになってくれます。島松も教会員の声なき声を聞き教会に集うことが癒しになるような教会形成を目指して歩んでいけたらと祈



っています。

「がんばっておいのりします」

山下 雅昭

前略 去年も今年も、カレンダーをもらって、どうもすみません。来年は月めくり一枚自分の分をもらいます。もう秋で、だんだん寒くなりますね。卓球大会は二位でした。ぼくの礼拝当番のおいのりはあるところでまちがっています。今後ともよろしくおねがいします。もうからだがつかれて、一ヶ月一回しかいけなくなりそうです。イエス様わたしのつみをゆるしてください。このあいだでたラーメンはたいへんおいしかったです。よろしくおねがいします。

「Let's practice」

伊藤 周子

「あっ！ずれた・・・」違う音を小指が押してしまった。心の中で「ごめんさい」と叫ぶ。先週は忙しくてほとんど練習していないからなあ。

島松の礼拝に出るようになった四年前、奏楽者が休みの日があった。明子先生が説教のあと自分でオルガンに向かう慌しさを見て、おもわず「オルガンのお手伝いをしましょうか」と言ってしまったのだ。賛美歌なら・・・と思ったがいざ奏楽となると、前奏・献金・間奏・後奏とあるのであせった。三十年以上も動かしていない指。不協和音

もしばしば。

しかし家で一心にピアノに向かっているとモヤモヤ・イライラはどこかに消えて、不思議と心が静かになる。賛美歌特有の和音が心地よい。教会生活が初めての私には、歌詞も新鮮だった。「間違っても大丈夫、気にしない」「奏楽してくれる人がいるってことがうれしいんだ」と言ってくれる人がいる。今四人の奏楽者の日程調整は、それぞれの仕事の関係で大変だが、教会のために自分ができることがあるということ、練習不足であっても受け入れてくれる島松の温かさに救われている。それにしても、練習時間を確保して、滑らかで豊かな奏楽をしたいなあ。

「島松らしい光景」

塩見 昭代

十月体育の日。今年もなんとかバザーを終えることが出来た。子ども達の活躍を見て頼もしさを感じた。片付けも終わり、「えらく静かだな」と思ってた見ると、礼拝堂で布団をかぶり（なぜ礼拝堂に布団があるか聞かないで下さい）みんな熟睡していた。これが島松らしい光景だと思ったのは私だけではないだろう。島松伝道所の礼拝堂は、礼拝を終えると子どもたちの場となる。キヤッチボール、卓球、最近面白かったのは、鍋のふたでピンポン玉を落とさず回すこと。（なぜ鍋のふたで遊べるのか聞かないで下さい）ピアノの音と笑い声。子ども達も忙しくなり皆が勢

ぞろいというわけにはいかなかったが、集れば盛り上がる。楽しくてホッとする、そんな空間が、新しい会堂になっても変わらずあったらいいなあ。

「あせらず、心と体をやすめつつ」

亀岡 朱美

毎週日曜日朝、教会へ行こうかどうか・・とまよっている。仕事をしていた平日できない事を、土・日でかたづけたいなんてつい思ってしまう。かといって、土・日を家で過ごし、思っていた事をすべてやり終えるかというところ、だらだら過ごしてしまい、何もせずにいたりする。自分は何でだらない人間なんだ・・・と落ち込んでしまう。長期的なヨクウツ状態が続いているんだなと自分では分析している。

ふとまわりを見ると、みんなも疲れていてヨクウツ状態のような気がする。あせらず、心と体をやすめつつ、元気をとりもどしていけるといいですね。

「理想と現実の間で惑う親」

大西 真言、大西 由香里

弱視である息子の中学進学を来春に控え、心が揺れています。四年生になる時に盲学校への転学も考えましたが、彼は軽度の自閉症もあり、その当時は親も子も全寮制の盲学校への転学を受容できませんでした。そして、たくさんの方の支援を得て、通っていた小学校に弱視教室を開設して頂きました。

その後、サポートを得ながらも、地域の中で子ども達とともに育ち、育てられる恵を実感する中で、道内に前例がないと知りつつも、中学校での弱視教室の開設を要望しています。

ところが、六年生にとりなり学習の進度・難易度が上るとともに、彼は周囲との明らかな差に気づき、劣等感を持つようになりました。「自分がクラスの重荷になっている」とさえ感じるようになってきたのです。

彼も思春期に入ってきましたが、「自分は自分でよいのだ」と思える、そんな環境をどう準備してやったらいいのか？ ノーマライゼーションという親の思いにこだわることで、本人を苦しめることにならないか？ 惑っています。

「ゆっくり前進」

関口 夏代

お元気ですか？ 役員を交代して頂いて少しゆっくりするつもりが… ゆっくりしすぎました。よく考えてみましたが、みなさんに伝えたいことは… 「ありがとう」です。いつの間にか自分の考えと逆の方向へ進み、自分自身の言動や考え方にも違和感を持ち、完全に自分を見失いました。そんな私を励まし、守って下さったみなさんの温かさ感謝しています。只今、軌道修正中です。「問題はさておきとりあえず前進もう。」と明子先生が以前に語っておられました。その言葉を胸にあまり悩まずゆっくり前進しています。帰る

ところがある。待つていてくれる人があるということは何よりも幸せです。みなさんありがとうございます。



イースター愛餐会。子どもたちがカレーセットを準備してくれました。なんと焼きたてナンつき。大好評。

「やっぱりほっとしたい」

松坂 晴美

「ほっとできる教会だ。」今まで多くの方々がそういつてくれました。たくさん励まされ、元気をいただきました。信仰は同じでも教会に招かれる人は実にさまざまです。どの人も笑っているけどいろんな思いを胸に抱いている。違う人間だけど悩みを共有できる、そんな豊かさ、正直さが魅力的な教会。なのに、最近は皆忙しく疲れている様子。もちろん私もその一人なのです。が… 忙しいからこそ心改めて礼拝のメッセージを聞く時間が私の一番ほっとできる時間。仕事や少年団で忙しくてくたくた。昔ならどれかをあき

らめようと考えたけれど、子育てという今の時間も楽しみながら、礼拝でほっとできる時間を大事にしたいなと思います。

「悩み始めました」

関口 章宏

学習能力に欠けるのか、自己愛が強いのか同じ失敗を繰り返しています。今迄の悪い習慣で染み付いた自己中心的な考えや、本能からくる無意識に自分を守ろうとする力はかなり強く、気付かずに周りの人を傷つけることも… 自覚はしているのですが直りません。客観的に自分を見ると、自分を甘やかして、一生懸命さが足りなかったと感じます。

四十にして惑わずと言いますが、四十一歳の私はいつも迷いっぱなしです。自分に一番欠けている部分は、相手の気持ちや理解し信頼する事。否定を肯定に拒絶を受け入れに変えられる様に小さな心を大きく育て、惑わない四十代を目指します。

「変らない教会でも」

亀岡 牧人(学生)

自分が今の島松がどう変った方がいいのか、と考えてみると、別にこのまま何も変らなくてもいいんじゃないかと思う。たしかに今の教会の建築のお金の話とかはしなければならぬと思います。でも他の面ではじぶんが話し合いに参加していないからかもしれない

いが気になることは無いと思う。逆に何も変らないというのは失礼だと思うけど、そういう所が島松なんじゃないかと勝手に思い込んでいる。徹也先生に聞かれ、改めて考えてみると、教会は今ほロボロなんじゃないかということの他に思い当たることはない。個人的なことをいうと建築は新しくした方が新鮮な感じがしてたのしそうだと思うので新しくしてほしい、もちろん現実はどういうまいかないことは承知である。

最近教会に来る人が少ないんじゃないか？と自分もたまに思うけど、それも人それぞれ事情があるんだし、今までそんな感じでもやっていけてたので、がんばってどうかするということもない。変らない教会それが島松のある意味良さになってくるんじゃないだろうか。

「Together 一緒に…」

塩見 和樹(学生)

島松教会は多くの人が集まる憩いの場です。子どもも多くていつも活気があります。

僕らはCSで多くの時間いますが、いつもまったりとして終わります。小さい子たちにはよく振り回されますがそれも島松教会に行く楽しみの一つです。

最近では高学年、中学生が多くなり、教会にくる子がすくなくなっているのですが、これからモリモリ盛り上げて

子供たちが来て楽しいような教会、づくりに貢献したいです。

うどん食堂ではおっさんおばさんたちの語らい場として楽しくやっています。新参加者大歓迎!!! ぜひ一緒に島松教会で「Together」ようぜー……

「島松伝道所」

辻中 啓太(学生)

僕達にとつて、この教会は「じゆうちよう」みたいな場所だと思っている。ハミ出さない限り好きに遊べる自由な場所、そこではありのままに「落描き」するみたいに楽しく過ごせる。そして、ひとし切り遊んで、皆家に帰る。何もそれは教会の子どもに限ったことではない。教会やキリストとは無縁な僕の友人達との間で、皆が都合のいい日になるとこぞってここに集まって遊ぶことはお決まりになっている。(泊まると鼻がつまる人が多い。)

大人達にとつてはどうだろうか?

それぞれが各々の祈りを持ち寄って輪になっている様子は、「元氣玉」を作っているように見える。その後の食事は、みんな笑顔だ。

「奏楽してます」

塩見 ひかり(高3)

私は去年から礼拝の奏楽をするようになりまして。小さい頃からピアノを習っていたので、練習すれば簡単に弾けると思っていたけど、ピアノの弾き方とオルガンの弾き方は少し違ってい

て最初はなかなかうまく弾けなくて苦労しました。今はちゃんと弾けるようになりましてが、今度は忙しくてあまり練習できなくなりました。それでも自分の奏楽でちゃんと礼拝が出来るようにしたいので、忙しい中でも時間を見つけて練習したいです。

「あくまで参加は自由」

亀岡 優人(中3)

基本的に世で言う日曜日と言え、主に休日の日である。なのに、なぜ自分だけ教会というものに参加しなければいけないのか。昔はそういう風に思っていた。でも、最近、まあ義務感じゃないけど、できるだけ行きたいという気はある。それでも、やっぱりそれぞれの用事、事情があったりで、僕自身そんなに出席している方ではない。「教会に行かないのは悪いこと」というわけでもないし、「教会に行っていればいい」とわけでもないと思う。確かに、各々の近況を伝え合うことは必要かも知れないが、あくまで参加が自由なのが「教会」。この組織の不安定さを認め、その上で互いの事情をどこまで考慮し、考え合えるのが問題だと思う。



「最近忙しくて」

伊藤 すみれ(中3)

最近忙しくて、なかなか礼拝にいけません。部活(バスケ)ががんばっています。また行事のあるときはなんとか参加したいです。

「なんか企画が必要だ」

亀岡 彩人(中2)

建築がどうかいうまえに、まずみんなが教会にくるのか心配です。いまでもいろんな事情を持っている人がいて、教会に来る人が少ないので、正直いつてあまり楽しくないです。一人だけでも毎日教会に来る人が増えればいいと思っています。教会が新しくなっても、出席する人数が少なかったら、なんの意味もないので、みんなが来てくれるように、なんか企画するのが必要だと思います。教会から人が消えていくのは悲しいので、まずはそういう点から改善していつてほしいと思っています。

「プラスバンドをしています」

塩見 みのり(中2)

私は中学校でプラスバンドをしています。秋まではコンクールや定期演奏会などがあり、忙しくなかなか教会に行くことが出来ませんでした。それでも、たまに教会に行き、みんなと話したりするとまた教会に行こうという気持ちになります。だから、これからも忙しければ、行ける時は教会に行こうと思います。

おわりに

年齢順に紹介いたしました。順番に読んでみると、年長者の方々と若者たちが元氣です。働き盛り世代は疲れているなと改めて感じます。

しかし、だからこそ教会が必要で主イエスの癒しと慰め、希望がいつそう大切になってきています。

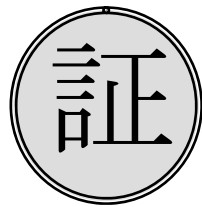
会堂建築への思いは決してとぎれたり、あきらめているわけではありません。大きな前進こそありませんでしたが、三年前からコツコツと献げられている建築献金は五年間で一千万円を目標に決め、現在三年目の目標六百万円に近づこうとしています。ありがたいことです。感謝です。

今何ができるのか、何ができないのか、祈りあいながら、願いを暖めながら皆で模索していきたいと思っています。

モーセに率いられた神の民も、立ち止まり、うずくまりながらも、神に問いつつ導かれました。今私たちの目には見えていないものを神は備えておられると信じていきたいと思っています。

どうか覚えてお祈りください。

Akashi



和解する力
＝主の働き を信じる

大西 真言



作：地

私は今、道東のある町に単身赴任しています。その職場での小さな出来事を紹介したいと思います。

今年（二〇〇七年）の四月に東京から、なりたてホヤホヤの課長が赴任しました。しばらく経って六月のはじめ頃、課のメンバーから「課長は常識がない。人とコミュニケーションを取らない（取る気がない）」といった声が聞こえてきました。また同時に、仕事も滞っていました。

当の課長に事情を聞いて見ると、「集中力がとぎれて良い仕事が出来なくなるので、なるべく話（特に雑談）はしたくない。」とのこと。「課長ともなればメンバーに仕事をしてもらうのが仕事であること、現場については大先輩であるメンバーから学ばなければならぬこと、そのためにはコミュニケーションが欠かせないこと」をアドバイスしましたが、腑に落ちないよう、返事が芳しくありません。

課のメンバーは個性的で素朴な愛すべき一人一人です。そんな彼らは、課長が東京からやってきたキャリアというところもあり、自分たちを見下して話もしないのだと感じ、また仕事も上手くできていないことに不満を募らせていました。一方私は「不幸にも生まれながらにして、人の心を押し量ったり、自分の気持ちを伝えたりする手だてを（十分には）持ち合わせていない人」と直感しました。そして、発達障害を抱える息子を持つ身として他人事と思

えなくなり、彼らの溝を埋めたいとは思いつても（高慢にも）仲介役を買って出ようと思いついたのです。

それからの数ヶ月、メンバーには「コミュニケーションを取らないのは悪意ではなく苦手なだけ、今に変わるし仕事も上手く行くようになる」と何度も訴えましたが、飲み会の度に「なぜ課長をかばうのか？」問いつめられ続けました。一方で課長には、ことある度にコミュニケーションの大切さを説き続けましたが、腑に落ちてないのか一向に行動に現れる様子がありません。そんな中、月曜を迎える度、朝を迎える度に地面に引つ張られるように体が重くなる毎日がやってきました。

そして九月の半ば、実習の学生を交えた飲み会でさへ噴出する不満を前に私が仲介役を演じていることがむしろ事態を悪化させていると、ついに悟ったのです。私はまず、課長に「あなたは生来コミュニケーションは苦手だが、じっくり一つのことに打ち込んで成果を出すタイプだと思う。そんな人に向いている職業の選択肢もあるが、不幸にも今与えられている仕事はそうではない。そのため人間関係がねじれ仕事もうまくいっていないことが残念でならない。今はこの現実に対して、苦手かもしれないが自ら積極的にコミュニケーションを取ることで、解決していくしかない。」ことを伝え、そのことをメンバーにも伝えました。

その後一月、メンバーが見守る中、

課長は私と厳しいやりとりをしながら一つの仕事の山場を乗り越えました。そんな中お互いにフツキれるものがあったのでしようか、なんと三次会までつきあう課長と、じゃれ合い、マイクを奪い合うようにしてカラオケを楽しむ課のメンバーとを、目にするのが出来たのです。

十月七日、久しぶりに戻った島松での明子先生の説教は、有名な「放蕩息子」の父親の、神への信頼に光を当てたものでした。「常識や経験に従えば放蕩が予測できたであろう息子に、神の働きを信じてあえて財産を分け与えた父と、旅に出た弟子に働かれ、真実の後悔と和解をもたらした神」でした。

自分の経験を頼みに仲介役を買って出た私には、「生身の人と人、その間に働かれ、真実の和解をもたらす主」への信頼がなかったのかもしれませんが。今は、始まったばかりの彼らの信頼関係がどう発展していくかわくわくしながら見守っています。



作：もね



※朝もぎトウモロコシを収穫する子どもたち。



吉田孝子さん 吉田俊二さん

去年から始まった「しままつ野菜だより」。さて、今年はどうな状況なのか担当スタッフの声を聞き下さい。

（関口章宏 千葉豊子 辻中明子）

しままつ野菜お試しください

しままつ野菜便りも二年目を迎えます。今年は、苫小牧地区の熱い支援を受けしままつ野菜便り（旬鮮便）を単独で発行しました。

反応は上々、お蔭様で沢山の方より注文をいただき予約だけで昨年を上回る数字となりました。

最初の収穫はトウモロコシで七月二十九日老若男女が集い400本を無事発送しました。その後も注文が続き最終的には1000本のトウモロコシを発送したことになります。

皆さんからは「甘くて美味しかった」という声が多く寄せられました。私達も吉田農場と他の農家のトウモロコシを食べ比べてみましたが、吉田さんの方が美味しく、思わずニヤリとしてしまいました。じゃがいもやにんじん等は料理の腕にもよるので何とも言い難いですが、ポテトサラダにした時はにんじんも甘くて美味しいと思いました。しままつ野菜便りはこれからも新しい試みを模索しながら進化を続けます。



「チーム関口」始動です



昨年から本格始動した「しままつ野菜だより」です。昨年は関口章宏さんがほとんど一人で仕事の合間に事務処理をしてくれました。

今年は春に発送した「旬鮮便第2号」が功を奏したのか、嬉しいことにどうもろこしは予想を超えたご注文をいただきました。その結果関口さんから仕事の片手間では無理という話が出て、急遽助っ人が入ることになりました。

世間的には決して若くない面々が「勉強会」と称してソフトの操作指導を受けること二度・三度。そんなこんなで、ギフトでご注文下さった方に請求書を出すのを忘れていたり、あせって品物が届く前に請求書を出してしまったり...とご迷惑をおかけしたことも多々あり申し訳ありませんでした。この頃ようやく、注文を受ける人・送り状を作成して吉田農場に届ける人・はたまたその下受けをする人と関口ボスの総括の下スムーズに流れるようになりました。来年度はバッチリ（のつもり）です。ので、皆様ご注文の方をよろしくお願いします。

吉田農場のよしださん

しままつ野菜だよりでお届けする野菜を作っているのは、恵庭市の「恵庭アグリ企画」という農業生産者グループで代表を務める吉田農場の吉田俊二さんと孝子さんです。吉田さんは農業を通常の半分以下に抑えることを目標に、安心して食せる美味しい野菜作りに取り組んでいます。と紹介すると硬そうに思われるかもしれませんが、人間大好き人間なので、発送の依頼に行って広い畑を眺めながら少しお喋りしてくると元気を貰って帰ってきます。全国の皆さんに美味しい野菜と一緒にこの元気も届けたいと思っています。

かぼちゃのガーリック風味 レシピ

材料 オリーブ油・・・大さじ3
にんにく・・・一片
塩・コショウ・オレガノ・・・少々

作り方

- ①フライパンにオリーブ油大さじ3を入れる
- ②にんにく一片をスライスし①に入れる
- ③にんにくの香りが出たところでスライスしたかぼちゃを入れ、両面を焼く
- ④塩・コショウし、オレガノをぱっとふって出来上がり

★道北センター発行「おいしいお便りレシピ」より

お問合せ先

Tel・Fax 01654-2-2692

Shuma-oma-p

募金に賛同してくださる方々

(敬称略・順不同)

西岡昌一郎【北海教区議長】
 久世そらち【同副議長】
 西岡 裕芳【同書記】
 山本 光一【同幹事】
 石垣 雅子

【弘前学院聖愛中高宗教主任】

糸井 国雄【錦林教会牧師】
 入江 清弘【香椎教会牧師】
 岩井 健作【隠退教師】
 宇野 稔【岡山教会牧師】
 榎本 栄次【今治教会牧師】
 榎本 恵

【アシュラムセンター主管牧師】

大門 義和【無任所教師】
 鬼形 恵子

【横浜英和女学院中高聖書科教諭・
 鎌倉恩寵教会協力牧師】

岸本 和世【隠退教師】
 黒多 健【向島伝道所牧師】
 小西 望【仙台北教会牧師】
 塩見 耕一

【北星余市高校宗教主任】

滝口 宣

【日本キリスト教所沢教会牧師】

武井 義定【松山古町教会牧師】
 中谷 哲造【隠退教師】
 中村 博

【隠退教師・五泉教会協力牧師】

西尾 市郎【うるま伝道所牧師】
 野本 真也【同志社大学理事長】
 平田 義

【向島伝道所牧師・
 愛隣館ディケアセンター所長】

府上 征三【洛陽教会牧師】
 藤田 公【隠退教師】
 宮島 利光【隠退教師】
 森脇 忠雄【梅花学園学園長】
 山本 真司

【同志社国際高校宗教主任・
 錦林教会牧師】

NEW MEMBER

神様はいつも

吉峰宣眞



私が島松伝道所に通い始めたのは去年の夏だったと思う。以前から広島に友人に勧められていたのだが、なかなか足が向かず、ようやく重い腰を上げた。5年前に神奈川県平塚市から実家の札幌に帰って来て、それ以来教会探しをしていた。平塚では平塚教会に通っていたのだが、札幌に帰ってきたことを機に、これで教会から解放されたい思いが心のどこかにあった。私はクリスチャンホームに育ち、幼い頃から「教会が一番大切、クリスチャンは〇〇であらねばならない」というような教育をされてきたが、それに対する反抗なのか、青年の頃から「教会から離れよう、解放されたい、教会から離れたらどんなに楽になれるだろう」と思いはじめた。しかし実際には教会から離れることはなかなかできず、苦しいときや悲しいとき、孤独や絶望を感じたとき、教会に行かずにはいられない自分がいた。神様はいつも私に苦難から逃れる道を用意して下さっていたのだ。そして今回もこの島松伝道所を与えて下さった。感謝します。アーメン (2007年7月1日 転入会式にて)

苦小牧地区の教会に来て驚いたことの一つに、「島松宣教協力委員会」の働きがあった。地区八教会から牧師と信徒を各一名ずつ出して、島松伝道所の宣教を支える話し合いをするのである。主要な話題は、毎年全国の教会や個人に呼びかけている全国募金の現状と方策についてだった。牧師がいて、信徒がいて、教会堂がある教会の財政を他の教会の人間が自分の事として受け止め、白熱した議論を交わしている様子を傍から観察すると、苦小牧地区とは、実におかしい教会の集まりだな、いやいや、それを当たり前の顔をしている島松

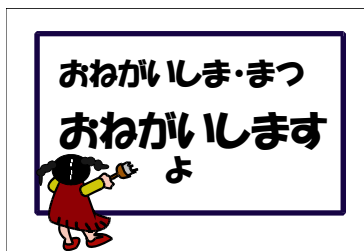
『常識では考えられない図々しさ』

～島松伝道所と宣教協力委員会～

室蘭知利別教会 橋本 邦彦

伝道所は、真に正々堂々とした図々しい教会だという印象を抱いた。あれから十三年の歳月が流れた。ここ数年、私はずっと島松宣教協力委員会として、募金の額の減少と教会財政の悪化を憂い、さて何かいい方策はないかと知恵をしぼり、祈りの項目に加えている。他の委員も同様である。「障がい者と共に歩む教会」として全国募金をスタートさせた教会は、全国の支援者・賛同者と一緒に、北海道の小都市から宣教の姿を伝えてきた。これからも積極的に、にぎやかに伝えていきたい。しかし、現実には、募金額が下降をたどり、宣教の力が弱まりつつある。確かに、図々しいのである。一教会の財政援助を「島松伝道所宣教活動推進募金」として、全国の教会と個人に求めているのだから。けれども、島松伝道所の奏でる不協和音が、神様という指揮者によって全国の教会の奏でる協和音に加えられる時、すばらしいハーモニーが生まれるのではないだろうか。新たなネットワーク作りの一環としてはじめて「しままつ野菜だより」も含めて、是非、この募金に協力していただければと願っている。「島松が元気だと地区の教会も元気だよ

ね。」



日本キリスト教団北海教区島松伝道所

宣教活動推進募金のお願い

苫小牧地区 島松伝道所協力委員会

— しままつ伝道所をご支援ください —

「主の教会として」 島松宣教協力委員会委員長 矢崎 和彦(苫小牧弥生教会牧師)

苫小牧地区を中心とする島松宣教協力委員会は、第5期宣教協力(2007年～2011年)を全会一致で決議しました。この決議は様々な視点から大きな意味を持っているように思います。「どうして他の教会の財政を共に考え、支えるのか」という意見が、苫小牧地区に新しく来られた方から聞こえてきます。しかし、地区で行っている礼拝交流や様々なプログラム、「島松だより」にあらわされた恵みを通して、島松伝道所と出会った人は、心動かされてきました。それはイエスによって建てられた教会だからだと思います。重荷を負い、この社会の中で小さくされた者の居場所として、島松伝道所は立ち続けています。そして、障がいを持つ者、子どもたち、そこに招かれた全ての一人ひとりがその居場所を必死に作り出そうとする姿を見ると、私たちはここに主がおられると強く感じるのです。

北海道はますます経済状況が厳しくなり、人口減にも歯止めがかかりません。苫小牧地区のそれぞれの教会もその影響を強く受け、現在8つの教会で6つの教会が無牧師の状況にあります。しかし、この第5期宣教協力の決議は「この8つの教会をはじめ、それぞれ大切な主の教会は立ち続ける」との強い決意が込められています。教会財政を支える積立金がなくなった状況にありながらも、宣教協力委員会では、苫小牧地区の恵みの輪を主の教会として祈りを共にするお一人おひとりと分かち合っていくために話し合いを積み重ねています。どうかそれぞれの恵みをお寄せ下さい。

「共に希望を」 同委員会委員 小林あずみ(千歳栄光教会信徒)

島松伝道所のバザーに出かけました。当日の天気予報は雨。しかし前日の夜、激しく降った雨はどこかに去り、すっかり良いお天気になっていました。

神が味方したバザー！「島松」の前では、焼きそば、焼とり、タコ焼きなど美味しそうな出店がいっぱい。良い匂いに誘われ、ついついお財布の紐も緩んでしまいます。大人顔負けにすっかり売り子になった小さな子ども達が、チョコバナナを差し出し、高校生が綿あめを作っています。徹也牧師が焼きそば作りに奮闘し、明子牧師が「大人も子どもに帰って、飴すくいをしませんか～」と誘っています。和気あいあいとした光景。大人も子ども一緒に、障がい者も健常者も一緒に……。バザーの日だけが特別なわけではありません。教会の大切な宣教として、地域に根差し、幅広い人達を受け入れてきた伝道所は、とにかく温かく、おだやかで、とても居心地がいいのです。

島松伝道所は、「弱さに立つ教会です」「弱さの中に主を証しする教会です」「弱さは負ではなく恵」これらのことばの背後では、たくさんの困難と苦しさに向き合ってきた事でしょう。財政的にも人的不足にも直面しながら、ただ弱さの中に働かれる主を信じ、仲間の存在に感謝をしながら共に歩んできた「島松」の日々があるのです。だからこそ、島松伝道所は温かく、おだやかで、優しいのです。島松伝道所の温かく、おだやかで、優しいあり方に確かな希望を感じるのです。

どうかこれからも島松伝道所の新たな歩みをお支え下さり、共に希望の芽を育てていただけますよう心からお願いいたします。

— 募金要領 —

募金目標額 3,700,000円

募金期間第五期5年間 (2007年～2011年)

献金方法 月毎・年毎・随時

郵便振替口座送金先 02750-1-19793

日本基督教団島松伝道所